

# 湘南藤沢学会「研究成果発表」成果報告書

XXV International Bile Acid Meeting: Bile acids in Health and Disease 2018.

政策メディア研究科 博士課程1年 中村杏菜

## 1. 活動日程・会場

日程 2018年7月5日～2018年7月8日

場所 ダブリン、アイルランド

## 2. 活動目的

2018/7/5-8、アイルランドのダブリンで行われる国際学会、「XXV International Bile Acid Meeting: Bile acids in Health and Disease 2018.」で自身の研究発表と胆汁酸分野で活躍する研究者との研究交流を行う。本学会において自身の研究を発信するだけでなく、他の参加者とのディスカッションを通して今後の研究活動を有意義なものとするを目的とする。

## 3. 発表内容

「Asperuloside, the extraction of Tochu-tea improves metabolic syndrome through the induction of bile acids signalling.」というタイトルで研究発表を行った。

近年、杜仲茶に含まれる有効成分の中で、抗肥満作用を持つ成分として Asperuloside(ASP)が特定された。既存の研究では ASP は高脂肪食負荷したマウスにおいて内臓脂肪抑制効果を発揮し、抗肥満効果をもたらすことが報告されている。しかし ASP がなぜ内臓脂肪を減少させるのか、その分子メカニズムを解明する研究は行われていなかった。本研究では、ASP が内臓脂肪を減少させるメカニズムを解明するために肝臓の脂質代謝に着目して検証を行った。その結果、ASP は肝臓でのコレステロールの新規合成を抑制することで脂肪酸の合成を制御し、肝臓への脂肪蓄積を効果的に行なっていることを見出した。さらに、脂肪細胞のうち、エネルギー消費を促進する脂肪細胞である褐色脂肪細胞においてエネルギー代謝を亢進させ、体脂肪減少に効果的に作用することを確認した。これらの研究により ASP には抗肥満作用があることを分子メカニズムとともに解明した。

本学会では以上の内容をポスター形式で発表した。

## 4. 活動成果

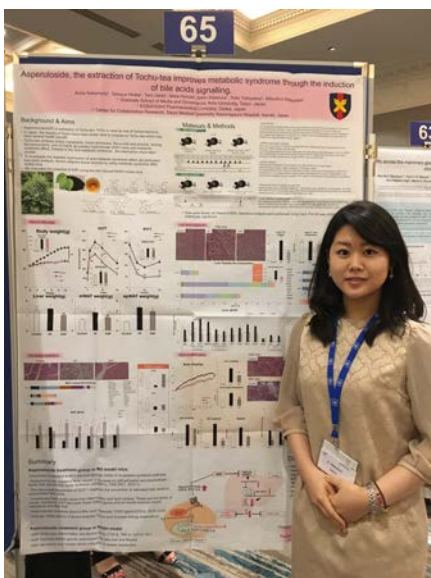
胆汁酸研究を行う研究者から様々なフィードバックを得ることができた。また、同日程で開催されたシンポジウムにて最新の胆汁酸研究を知ることができ、特にエネルギー代謝改善作用のメカニズムにおいて自身の研究に新たなアイデアとして生かすことができる知見を得ることができた。

また、本学会への参加で海外の研究者とのネットワーク形成をすることができた。この事は今後の自身の研究の発展のみならず、共同研究への発展が期待できる。

## 5. 今後の展望

今回発表したテーマは原著論文掲載に向けて、筆頭著者として論文執筆中である。今回の学会を通して得られた知見を自身の論文のディスカッションへ取り入れ、より質の高い内容の論文を素早く仕上げていきたい。

また、今回得られた研究者同士のネットワークを活かして、共同研究を実現させていきたい。



写真：学会発表での様子